

環境プラン実現のためのはじめの一步

市民主体で進む環境への ファーストアクション

環境プラン実現のために、はじめの一步を踏み出すとする「ファーストアクション事業」のうち、実際に始動している2つのプロジェクトと「土づくりを学ぶ会」の取り組みを紹介します。これらの取り組みは、市民の皆さんが率先して実行する中で、市がパートナーとして支援していく事業です。

ファーストアクション事業

1

廃食用油の地域循環

BDF地域循環プロジェクト

(菜の花プロジェクト)

BDF 地域循環プロジェクトとは

BDF地域循環プロジェクト(以下「菜の花プロジェクト」)は、資源、エネルギーの地域循環を目的としたものです。具体的には、地域で育てた菜の花などからとれた油の廃食用油、地域で回収した廃食用油をBDF(※)化し、公共車両などで使用します。その結果、化石燃料の使用量を抑制し、地球温暖化防止にも役立ちます。(左ページの菜の花プロジェクト図参照)

このプロジェクトの主体は「みのかも菜の花の会(代表渡辺寿一さん)で、現在10人がプロジェクト実現のために活動しています。「菜の花プロジェクト」は、地域の中だけで資源が循環し、その行程が

直接市民の皆さんの目に見えること、小中学生から農家の人まで市民の皆さんがその循環(サイクル)に、容易に関わることでできること、地域循環モデルとして環境学習にも役立つなど、その効果が多岐にわたることから、ファーストアクション事業の一つとなりました。

「菜の花プロジェクト」 着々と進行中

●ゴミ収集車BDFで走る

5月16日、市のゴミ収集車がBDF化した燃料で走り出しました。

市内で回収した廃食用油を精製会社でBDF化し、燃料として使用しています。排気ガスはてんぷら油のにおいがあります。

●廃食用油の回収始めました

5月から、毎月第3日曜日に、各連絡所で廃食用油の回収を始めました。5、6月の2カ月で集まった廃食用油は約120リットルです。今後、回収場所を増やし、回収量も増やしていきます。

●菜の花の栽培開始

「みのかも菜の花の会」では昨年の12月、山手小学校北の実習田に菜の花の苗を実験的に植えるなど、栽培準備を進めています。

今年の10月に山手小学校実習田、総合福祉会館付近の畑約1,000平方メートルで菜の花の植え付け

※ BDFっていったい何?

BDFとは、バイオ・ディーゼル・フューエルの略で、植物油から作ったディーゼルエンジンの燃料のことです。

特徴・メリット (みのかも菜の花の会調べ)

- 廃食用油を精製してつくることができる
- BDFを使用した車の排気に含まれる、酸性雨の原因とされる硫黄酸化物、ぜんそくの原因とされる黒煙が少ない
- 現在使用中のディーゼルエンジンを改造しないで使用できる
- BDF燃料の精製から使用までに発生する二酸化炭素の量が軽油の場合の半分といわれている。また、発生する二酸化炭素は、菜の花を栽培することで吸収されるため、軽油のように増加することはない
- 植物油を原料にするので、植物を栽培する限り軽油と異なり再生産できる



▲市内を走る市のゴミ収集車はBDF(100%)を燃料としています